

猿投祭り

猿投祭りは 16 世紀から現在の愛知県で行われていたアクロバティックな武術「棒の手」のパフォーマンスを見ることができる貴重な機会。10 月の第 2 週末に猿投神社で開催されるこの祭りは、一年の豊作を祈願して行われる。

棒の手とは、木の棒や刀、槍、鎌などを使って、おおよそ決まった動きで演武する儀式であり、民俗芸能でもある。戦国時代（1467-1568）に始まったと考えられている。戦国時代は、戦乱が頻発していたため、もしかしたら大名に励まされた農民たちが、身を守るために武術を身につけようとしたのでしょう。棒の手は、後にいくつかの流派に分かれ、それぞれが独自の振り付けを持つようになり、神を祀る神社で演じられる（奉納される）ようになった。武器の使用が武士に限られていた江戸時代（1603-1867）には、農民が武器を使う唯一の機会が「棒の手」であった。そのため、猿投神社には現在の愛知県と岐阜県にまたがる地域の 180 以上の村から参加者が集まり、その技を奉納・披露したこともあるほど人気があった。

今では江戸時代ほど人気はないが、棒の手の奉納は猿投祭りの中心的な要素だ。土曜日には、猿投山の麓にある 2 つの神社、東宮と西宮から一対の神輿が猿投神社の本宮に下りてくる。夕方になると神輿が提灯で照らされ、棒の手の披露が始まる。神楽や流鏝馬が披露される日曜日まで続く。